

三世代でつながり、笑顔が広がる広報誌

ぼらんていあ だより

No.456

2026.09

ぼらんて君特製
「げんきっちゃ」で
ございます!



写真でひとこと 5月号(No.454)

優秀賞

優秀賞の他、秀逸賞を
Instagramで発表中!
是非ご覧ください!!



特集

家でも学校でもない
安心して過ごせる第3の居場所
～広がる「こどもの居場所」について～



CONTENTS

【特集】

家でも学校でもない
安心して過ごせる第3の居場所

- 登録ボランティア紹介
- コーディネート事例

- ボランティアの輪
- 応募コーナー「写真でひとこと」
- お便りコーナー
- ボラセンからのお知らせ
- ボランティア募集情報



豊田市社会福祉協議会
ボランティアセンター

本誌の発行には
共同募金配分金が使われています



家でも学校でもない 安心して過ごせる第3の居場所 ～広がる「こどもの居場所」について～



こどもの居場所ってどんなところ？

それは、家でも学校でもない、こどもにとって「また行きたい」と思える地域の居場所です。

この背景には、こどもたちを取り巻く、家や学校では支えきれないさまざまな状況があります。

- ☑ 家で一人で食事をすることが多い
- ☑ 保護者が仕事で忙しく、家で過ごす時間が限られている
- ☑ 家族の介護など、年齢に見合わない役割を担っている
- ☑ 「学校へ行きたくない」「学校へ行かなければいけないの？」
といった心の悩みを抱えている

こうした状況から、こどもたちが安心して過ごせる「第3の居場所」の必要性が高まる中、ボランティア活動によるこどもの居場所が広がっています。その内容は、こども食堂や学習支援、プレーパーク、未就園児の遊び場など多岐にわたり、多くの地域の人に関わり運営を行っています。

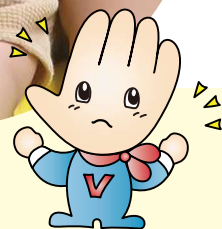
こどもたちは地域の人との交流を通して、学びや体験を重ね、また、地域の人にとっては、生きがいづくりや世代間交流、学生にとっては社会体験など、こどもの居場所は地域をつなぐ大切な場として、多様な役割を果たしています。



「ここにいて良いんだ」

そう思える場所が一つ増えるたびに、こどもの笑顔が増え、その笑顔は地域へと広がります。地域に暮らす一人ひとりの思いや行動によって「こどもの居場所」活動は、支えられ育まれます。

あなたやあなたの身近で「こどもの居場所」を始めてみたいと思った時は、社協と一緒に考えてみましょう。



こどもの居場所を始めてみたい!と思った方へ

まずは、どんなこどもの居場所をつくりたいかをイメージして、その思いに共感する仲間を集めます。活動の目的を共有したら、他のボランティアグループを見学し、どこで、どんなタイミングで、誰に来て欲しいかなどのやり方を決めましょう。

その後、関係機関とつながり、プレオープンをしましょう。その後は仲間同士で振り返りを行い、意見を出し合いながら、より良いこどもの居場所へつなげていきましょう。

STEP ① 居場所の目的や対象を決め、スタッフで思いやイメージを共有しよう。

STEP ② 運営方法(会場・開催頻度など)を決め、地域や関係機関と協力体制を整えよう。

STEP ③ プレオープンをやってみよう。

STEP ④ スタッフで振り返りを行い、話し合いを重ねながら継続していこう。

応援したい!と思った方へ

活動資金や物品寄付など、応援の仕方はいろいろあります。ボランティア活動でお手伝いすることもできます。ボランティアをやったことがない方でも、こどもの相手をするのが大好きな方なら大歓迎です。一人ひとりの小さな関わりが、こどもたちの第3の居場所を支えます。

多くの方の助けを必要としています!

忙しいスタッフのお手伝いができる方

こどものペースで勉強を教えてくれる方

見守りながらこどもと一緒に遊んでくれる方

こどものペースで話し相手になってくれる方

社協に相談してみよう!

社協では、ボランティアや寄付の相談・仲介をはじめ、活動立ち上げ助成金や活動支援物品の紹介、交流会の開催、「とよた☆こどもの居場所」紹介冊子の作成などを通して、こどもの居場所を幅広くサポートしています。

Instagramでも
情報発信中!



登録ボランティアグループ紹介



登録グループ名

子育てネットワークの会ふじおか

活動内容

就園前の子どもの居場所、遊び場

朝のご挨拶として歌を楽しんだ後、シャボン玉や水遊びなどの外遊び、おもちゃや積み木、ボール遊びを通して親子が自由に交流します。

七夕や秋祭りなど季節の行事も取り入れ、紙芝居や制作活動を行いながら、子ども同士や親子のつながりを育む温かな居場所づくりに取り組んでいます。

発足のきっかけ お母さんの力に

20年以上前、自身の子育てで苦労した経験から、「子育て中のお母さんたちの力になりたい」という思いで発足しました。子育てを支え合える場所であるとともに、親御さん同士が気軽に情報交換や交流ができる場となることを目指して活動を続けています。

メッセージ 家庭ではできない体験を

子どもたちの笑顔や成長に触れられることが、この活動の大きな魅力です。スタッフも子どもたちから元気をもらい、楽しみながら活動しています。

参加した保護者からは、「家ではできない体験ができた」「子どもの成長を感じられた」といった声も寄せられています。活動は藤岡地区7か所にポスターを掲示して案内していますので、興味のある方はぜひ気軽に参加してくださいね。



このグループに
興味のある方、依頼したい方
また取材を希望のグループは
ぜひ社協までお問い合わせください

活動場所 豊田市藤岡地区 | ふじのさと2階多目的ホール

ボランティアセンターでの コーディネート事例

カフェから広がる地域の居場所 ～お客さんと共に～

きっかけ PROLOGUE

Cafe39'sには子ども連れから高齢者まで幅広い世代が集まります。高齢のお客様から「やることがない」という声をきっかけに、お客様や友人へ声をかけ、地域の協力を得て畑づくりを始めました。

「以前は畑をやっていた」「挑戦してみたかった」「何か役に立ちたい」といった思いを持つ人たちが、来たい時に気軽に参加できる「39'sファーム」が誕生し、世代を超えた交流の場となっています。



それから… AFTER THAT

活動が続ける中で、39'sファームは自然と高齢者の居場所づくりへと発展しました。地域包括支援センターの協力により認知症カフェを定期開催し、CSWが福祉施設との橋渡し役となることで、施設利用者の社会参加や地域交流も広がっています。メンバーは施設での種まきや畑での収穫、外出が難しい方への出張カフェなどを通して交流を深め、生き生きとした笑顔に喜びを感じています。

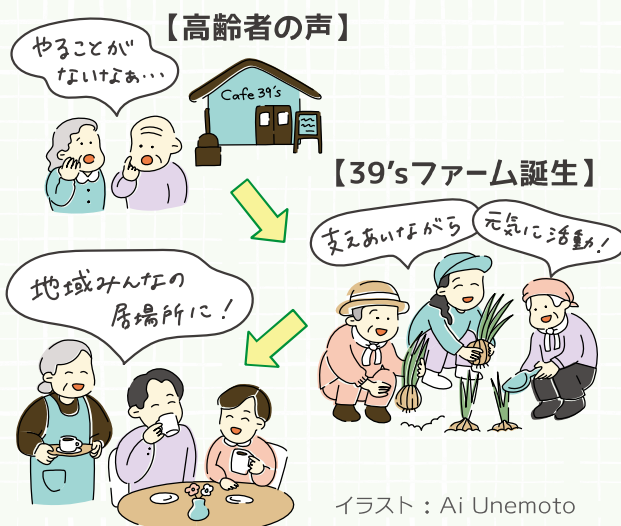
畑作業は大変ですが、35～91歳のボランティアが支え合いながら、自らも生きがいを持って元気に活動を続けています。

CSW(コミュニティソーシャルワーカー)は、「どこに相談すればいいかわからない悩み」を受け止め、支援者や関係機関につないだり、課題の解決に向け一緒に考えたりする“地域の身近な相談者”であることも役割のひとつです。

取材メモ

MEMO

店主さんの「地域の方に楽しんでもらいたい」という思いが広がり、縁と縁がつながり、地域に根付いたカフェは、とても暖かく和やかな雰囲気でした。



イラスト：Ai Unemoto



＼ぼくも!!/
＼わたしも!!/

ボランティアの輪

トライ☆やるボラ若園 若園地区の子どもボランティア

若園地区では、子どもたちが自発的にボランティア活動へ参加できる地域づくりを進めています。小学校から中学校までの9年間を通して、「ボランティアとは何か」を見て、体験し、学べる環境が整っています。小学生は登下校の見守りや田植え、茶摘み体験などを通じて地域の支えに触れ、中学生になると自ら地域で活動する立場へと成長します。

若園中学校と地域学校共働本部は、「ボランティアをやってみよう」という中学生をサポートする窓口として、その一歩を応援しています。



「シトラスリボン」
「地域・学校・家庭」で
子どもを見守る若園の
シンボルマーク



若園中学校では、小学校時代から地域のボランティア活動に触れてきた経験を生かし、「自分も地域のために活動したい」と考える生徒が多くいます。その思いを応援するのが、地域の企業や交流館などから寄せられる依頼をもとに活動する「トライ☆やるボラ若園」です。

保育や生き物観察、遊び、農業、イベント、木工などさまざまな活動から、自分の興味や都合に合わせてスマートフォンで気軽に申し込むことができます。

活動内容を幅広く用意することで、外で体を動かすことが好きな子も、室内で落ち着いて取り組みたい子も、それぞれに合ったボランティアへ参加できます。

今年で8年目を迎え、スタンプラリーなどの工夫も実り、現在では年間約100人の生徒が参加する地域に根付いた取り組みとなっています。

活動紹介

ふれあいまつり中学生ブース 実行委員会

9月に若園交流館で行われる「ふれあいまつり」にブースを出しています。実行委員会の中でどんなブースにするか考えて、地域の大人が先生となり、一緒に盛り上げてくれます。



昨年度は
ふれあいまつりの
ライブ配信に
初挑戦しました！

こども園ボランティア

こどもといっしょに折り紙、ボール遊び、リレーなどをしました。お昼寝の寝かしつけ、おもちゃの消毒などを行いました。



園の先生たちの
大変さがよく
分かりました！

応募コーナー

写真でひとこと

右の写真を見て思いついた、「ひとこと」を投稿する大喜利コーナーです。たくさんのご応募をお待ちしています！

楽しい！おもしろい！と思える回答の中から一部を次号以降、本誌で掲載します。

優秀回答の中から若干名の方に500円分の図書カードをプレゼントします。

応募方法は、裏表紙記載のボランティアセンター住所宛にハガキを投函する方法と、応募フォームから入力する方法があります。

応募フォーム



2026年11月20日(金)締切

【当選は賞品の発送をもって発表にかえさせていただきます】



今号の写真

お便りコーナー

応募の中でいただいたご感想を紹介します。たくさんのご応募お待ちしております！

学生頃

学生の頃、ボランティア活動をしていたのでまた行きたいと思いました。

気軽にできることがボランティア活動の良さの1つなので、自分の好きなタイミングで参加してみてください！わからないことや相談したいことがあれば、ボランティアセンターまでご連絡ください！



勇気をもらえます

若い方もボランティアに参加している写真には勇気を貰えます。私もベルマークなど小さなことからやってみたいです。

自分のできる範囲で無理なくボランティアをすることが、良さの1つです！前向きなご意見をいただき、私達もメラメラとやる気が湧いてきます！



ボランティアが浸透していく

このようにボランティアが浸透するのってとってもいいですね。

ありがたいことに「ぼらんていあだよりを見て興味を持ちました」と窓口に来てくださる方もいらっしゃいました！もっと浸透していくようにボランティアに関する情報をどんどん発信していきます！



◀ボラセンからのお知らせ▶

小学校の居場所 見守りボランティア募集

平日の授業後、小学校の教室を借りて帰宅時間まで過ごす子どもの居場所で、子どもを見守るスタッフが募集します。

居場所 豊田市内小学校

支援内容 利用する子どもの安全な見守り

募集人員 子どもが好きな心身ともに健康な成人

問合せ

随時申し込みを受け付けています
詳しくはお問い合わせください
090-6355-2507(近藤)

！ご存知でしたか？！
マダニの被害にも
ボランティア保険が
対象となります！！

利用方法など、詳しくは
ボラセンまで！

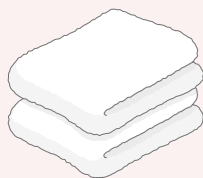


ボランティア募集情報

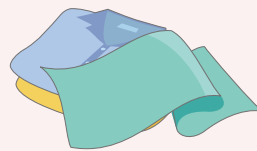
社協 DE 集めています！



☑ 毛糸(未使用)



☑ タオル(未使用)



☑ 端切れ布

「集める」ことは、
気軽にできる
ボランティア活動♪



**利用
方法**

地域や施設での作品づくり
に使用し、地域貢献に活用
しています

豊田市福祉センター2階窓口、社協支所・
出張所の各窓口で回収しています。

ばらんていあだよりに関するお問い合わせ

発行No.456 | 2026年9月号(隔月発行)



豊田市社会福祉協議会
ボランティアセンター

〒471-0877 豊田市錦町1丁目1-1(豊田市福祉センター2階)
TEL. 0565-31-1294 / FAX. 0565-33-2346
MAIL. vc@toyota-shakyo.jp



WEBサイト

<https://vc.toyota-shakyo.jp>

SNS



Instagram ▶

◀ Youtube

